

お米と私の成長ものがたり

周西小学校 六年

島野 玲那

「今日もおいしくできましたかな。」

私はおにぎりを作りながら、両親の帰りを祖父母と待つていた時期があった。

先に帰ってくるのはいつも母で、手を洗ってすぐに、

「ありがとう。助かるなあ、おいしいし、つかれもふき飛ばよ。」

と、喜びながら食べこくれる。私はそれがう

れしくて、毎日楽しくおにぎりを作っていた。

味はというと、シンプルな塩のみ。たまた

まてホッカ力な真白いお米と塩の、絶み

うなバランスがたまらなかつた。このバラ

ンスが決まるまで、結構な時間がかかった。

とちゅう、梅やおかかなどの色々な具材を試

してみたこともあったが、結局は塩が一番し

っくりきた。両親も同じ意見だった。母の帰

りが少しおそい日は、まだかな、早く食べて

もらいたいなと、げん関のとびらが開くのをも

首を長くして待つていた。

そして帰ったときたら、一緒に食たくを囲んでおにぎりやおかずを食べる。そんな毎日が私とはとても気に入っていた。

ある日、母からさそわれて、お米を育てることにした。土やバケツをホームセンターに買いに行き、種もみを水にひたした。白い芽が出るのを待つ時間がとても楽しかったのを今でも覚えていいる。学校から帰ったとき、菜は出ていないかと毎日確認していた。芽が出

てきた日には、仕事中の母に電話で報告したくらいだった。芽が出た種もみを、準備したバケツの土の中に植えてから毛、わくわくが止まらなかった。

それから毎日、母と稲を育てた。土から芽が出たときは、すごくうれしかった。ネコも興味しんしんにまどの内側からのぞいていた。ところもかもしろかったし、ところも楽しかった。少しずつ成長していく稲を見て、生命のすごさを学んだ気がする。日に日に強くたく育つ。

ていく稲を見て、自分も少しやる気と勇気を
もらえた。

そんな稲のしゅるかくの時が来た。農家さ
んに比べてしまえばすごくほんの少ししか育
ててはいないけれど、わくわくだきだきか止
まらなかつた。

すごくいい感じに育つた稲は、私にはたく
ましく見えた。私は手伝つていた程度だけれ
ど、毎日見守つていた稲のしゅるかくはとこ
も楽しいものだつた。

私は稲をもつとたくさん育てている農家サ
人はすごいなあ、と実感することかできた気が
する。暑い日も寒い日も稲を育ててくださっ
ている農家さんにはとても感謝の気持ちしか
ない。そしてまた、食品ロスを減らすために
も、残さずいたたこうと食材への見方も変わ
つた。好ききらいの多い私だが、今はもう前
ほどは残さなくなつたと思う。

育てたり作つたりした経験は、私の見方や
考え方を覚えてくれた大切な思い出なのだ。